

平成 20 年度における 国家的に重要な研究開発の事前評価について(案)

1. 評価対象

「気候変動問題対策二酸化炭素削減技術実証試験」【経済産業省】

- 概算要求額： 40 億円(平成 21 年度)
- 全体計画： 約 330 億円(平成 21 年度～平成 25 年度)

<概要>

地球温暖化対策のため、我が国が世界に約束した温暖化効果ガス排出量を画期的に削減するということを可能とする技術の確立に必要な実証試験を実施する。具体的には、火力発電所等の大規模発生源から分離回収した CO₂ を年間約 10 万トン規模で地中帯水層(地下 1000m 程度)へ貯留(二酸化炭素回収・貯留(CCS))する技術を実証するとともに、長期挙動予測可能な二酸化炭素挙動予測シミュレータ技術、モニタリング技術等の基盤技術の確立を行う。

2. 評価検討会メンバー

総合科学技術会議 有識者議員	奥村 直樹 薬師寺 泰蔵
評価専門調査会 専門委員	《座長》中杉 修身 本田 國昭 田湊 雪子
招聘者 三菱重工業(株) プラント・交通システム 事業センター 技監 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 教授	飯嶋 正樹 松橋 隆治

(敬称略)

3. 調査・検討項目

評価検討会においては、以下の基本的な項目に加え、評価対象事案に応じて評価の視点等を具体的かつ明確化し、調査・検討を実施する。

- A. 科学技術上の意義
当該研究開発の科学技術上の目的・意義・効果。
- B. 社会・経済上の意義
当該研究開発の社会・経済上の目的・意義・効果。
- C. 国際関係上の意義
国際社会における貢献・役割分担、外交政策との整合性、及び国益上の意義・効果。
- D. 計画の妥当性
目標・期間・資金、実施体制・人材確保、安全・環境・文化・倫理面などからの妥当性。
- E. 運営等
研究開発全体の運営・管理体制、事前評価の実施状況、評価結果の反映の仕組み等。

4. 検討スケジュール

- 9月9日(火) 評価専門調査会【済】
 - ・ 評価検討会の設置、スケジュールの確認等
- 10月14日(火) 第1回 評価検討会【済】
 - ・ ヒアリング、追加質問と論点候補の抽出
⇒ 経済産業省へ追加質問への対応を依頼
- 10月17日(金) 評価専門調査会【本日】
 - ・ 経済産業省からの概要説明及び質疑
 - ・ 評価検討会の設置および今後の評価の進め方についての報告
- 10月27日(月) 第2回 評価検討会
 - ・ 追加ヒアリング、論点整理
⇒ 評価コメントに基づいて評価報告書原案を作成
- 11月17日(月) 評価専門調査会
 - ・ 評価報告書案の検討
- 11月下旬 総合科学技術会議本会議
 - ・ 評価報告書案に基づく審議・決定